

「地域の中核、世界の人材」 UNIVERSITY OF YAMANASHI

山梨大学広報[ヴァイン]

August 2013 vol.20

# Vine

## リエゾン アカデミー研究医 養成プログラム

学部と大学院の運動による医学生への  
早期英才研究教育

[人物発掘]

時友裕紀子教授

(教育人間科学部学校教育課程生活社会教育コース)  
(大学院教育学研究科教科教育専攻/社会文化教育講座)

[びっくあっぷレッスン]

電気・電子工学実験II

[ゼミ紹介]

生命環境学部・環境科学科 2年生合宿ゼミ

サークル紹介/クローズアップびーふる / キャンパス内外情報



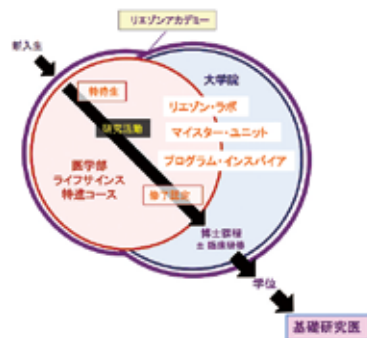


学部と大学院の連動による医学生への早期英才研究教育

# リエゾンアカデミー 研究医養成プログラム

## はじめに

山中仲裁教授のノーベル医学生理学賞受賞が大きく報道されたことは記憶に新しいところですが、その一方で医学研究を志す医学生の減少が大きな問題となっています。国もこの点を深く憂慮し、昨年度文部科学省は「基礎臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成：医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成」事業（総額約10億円）の公募を行いました。そして本学医学部の取り組みである『リエゾンアカデミー研究医養成プログラム』が他の9大学とともに採択を受け、5年間総額約1億円の助成がなされることになりました。これは山梨大学医学部



リエゾンアカデミーの概要

が2006年から取組んで来た、医学科学生に対する研究教育制度『ライフサイエンス特進コース』を中核とし、学部と大学院を連動させる形で研究医の育成を目指すものです。このプログラムにより、基礎研究医・臨床研究医としての基盤を早期に確立することができるだけでなく、大学院入学後に学部時の研究経験と実績を元に早期に学位を取得することも可能になります。

## ライフサイエンス特進コース

『ライフサイエンス特進コース』は、将来基礎研究医や臨床研究医を志望する医学科学生に対し、課外時間や長期休暇を利用して研究者としての早期英才教育を施し、世界の第一線で活躍する人材を育成することを目的に2006年に創設されました。毎年医学科学生（1年次生）を対象に10名程度の「特待生」を募集し、1年次より大学院講座に受け入れ、6年の在学期間を通じて大学院に準じたレベルの研究教育を施し、学部卒業時には博士課程修了者に比肩する研究能力と業績を持つ研究者に育てることを目標にしています。特待生には個別に研究テーマが与えられ、その研究



冬季セミナー合宿での学生企画の準備

成果を筆頭著者として論文に纏め、国内国外での学会発表や国際学術誌での発表を行います。現在『特進コース』は医学部における学生教育の“目玉”となっており、基礎医学系10講座、臨床医学系6講座、計16の大学院講座で総勢45名の特待生が日々研究を行っています。また特待生の鼓舞・激励を目的に、2008年より「特進コース研究成果発表会」や著名な学外講師を招いた「特進コース

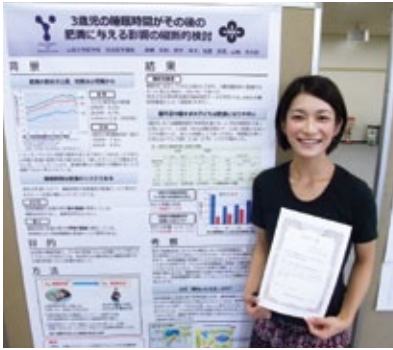
特別教育セミナー」を、2010年から「特進コースセミナー合宿（冬季リトリート）」を毎年開催しており、さらに東京大学、群馬大学、千葉大学とともに「関東4大学研究医養成コンソーシアム：夏のリトリート」を行っています。このようなトレーニングを通じて研究者として自立するための基礎的知識と技術とを学部時代に修得し、学部卒業と同時に世界の第一線で活躍できるだけの実力を培い、将来の飛躍（学位の取得、ポストの獲得、海外留学、等）の礎となる研究業績の蓄積を目指しています。

## これまでの実績

この『ライフサイエンス特進コース』は着実な実績を上げており、過去7年で、特待生の筆頭著者英文原著論文・総説の総数は15報（他、共著論文18報）、英文症例報告2報、和文原著論文・総説は3報、また筆頭者としての国内・国際学会での発表件数は44件、学内外の受賞表彰件数は30件、新聞・テレビ等での報道件数は14件を数えます。中でも「日本学生支援機構優秀学生顕彰」学術部門では5年連続で「大賞」を連続受賞しています。同一施設の5年連続の受賞は、同賞が始まって以来の初の快挙です。また、今年3月に文部科学省主催の「第2回サイエンスインカレ」（理



ライフサイエンス  
特進コース部会委員長  
大学院医学工学総合研究部  
分子情報伝達学講座  
教授 北村正敬



関東4大学夏のリトリートでの研究発表

## 文部科学大臣表彰



「第2回サイエンス・インカレ」にて、最高賞である文部科学大臣表彰を受賞

またポスター発表の部門では、「科学技術振興機構理事長賞」を田口備教君が受賞



日本学生支援機構優秀学生顕彰 授賞式

の最高賞である「文部科学大臣表彰」の栄誉に輝きました。またポスター発表の部門では、その最高賞である「科学技術振興機構理事長賞」を医学科3年田口備教君(薬理学)が受賞しました。このように山梨大学医学部は、「研究のできる医師」を養成する特色ある大学として、国内でもトップの実績を挙げています。

## リエゾンアカデミー研究医養成プログラム

『ライフサイエンス特進コース』の取組みを更に前進させるため、2012年より、『リエゾンアカデミー研究医養成プログラム』がスタートしました。これは『特進コース』を中核に学部と大学院を連動させる形で研究医の育成を目指すものです。このプログラムは学部と大学院の融合を理念とし、きめ細やかな研究指導を可能にするユニット型教育チーム、また研究者としての視野の形成やモチベーションの醸成のための各種取組みを特徴としています。具体的には、特別カリキュラムの受講、大学院講義の受講、研究者として必要な英会話力を養成するイングリッシュ・サロンの開講、また国内外の研究施設への短期留学制度や、学会・セミナー等への参加に対する経済支援、などです。また、特進コース修了時には修了認定のための審査が行われ、修了認定を受けた学生は大学院での就学と学位の取得に関し、様々な優遇措置を受けることができます。



研究室での実験と討論

## 来たれ!山梨大学医学部へ

医学部に入学する学生の多くは、臨床医になることを目指しています。従ってほとんどの学生が、「基礎研究など自分には関係がない」と思いがちです。しかしそれは大きな誤解です。基礎医学に進もうとする医学生は勿論ですが、将来臨床医をめざす医学生にとっても、基礎研究に関する知識と経験は今や不可欠のものとなりつつあります。たとえば今話題のiPS細胞による再生医療、遺伝子治療、分子標的治療ですが、担当する医師に生命科学に関する確固たる見識と経験がなければ話になりません。少なくとも大学病院や地域の基幹病院で活躍をしたい、そう願う者にとって、たとえ臨床医であっても基礎医学研究の豊富な経験と実績が必要不可欠なのです。そうした意味でも、若い医学生が高レベルの先端の基礎研究に早期に深く関わってゆくことは重要です。本学の『リエゾンアカデミー』、そして『ライフサイエンス特進コース』は、大望と志のある学生の皆さんの意欲に、必ず応えてくれるでしょう。

なお本取組みの詳細については、下記のサイトをご参照下さい。

なお本取組みの詳細については、下記のサイトをご参照下さい。

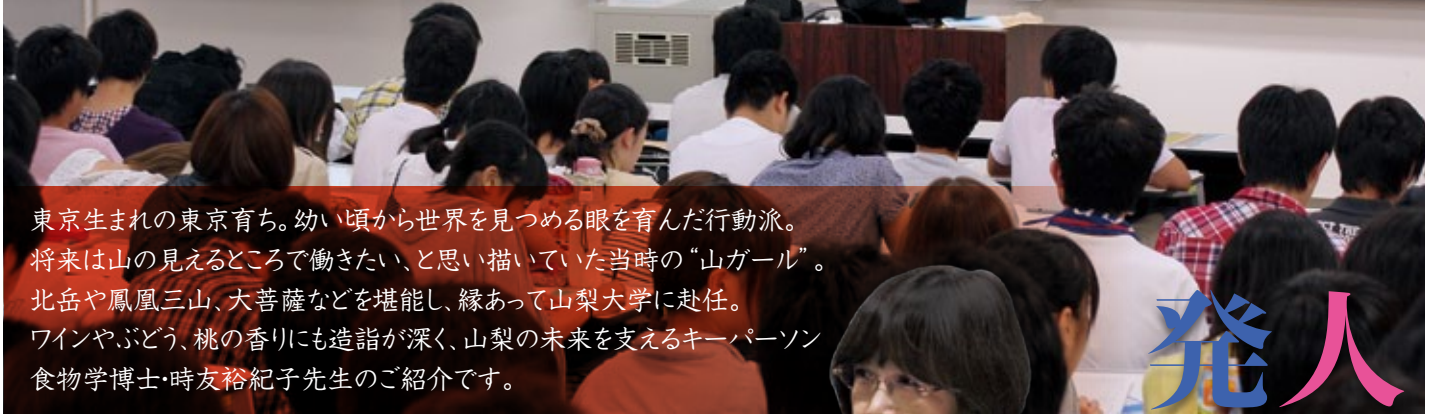
**リエゾンアカデミー HP** : <http://www.med.yamanashi.ac.jp/liaison/>

**ライフサイエンス特進コース HP** : <http://www.med.yamanashi.ac.jp/lifescience/>



リエゾンオフィス・メンバー

1日3食+(間食)  
 食事の内容と量 : 一汁三菜  
 一汁三菜とは「飯、汁物、主菜、副菜、副菜」 腹八分目  
 穀類(米、パン、麺類)・いも類、豆・豆製品、  
 魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、果物を適量。



東京生まれの東京育ち。幼い頃から世界を見つめる眼を育んだ行動派。  
 将来は山の見えるところで働きたい、と思い描いていた当時の“山ガール”。  
 北岳や鳳凰三山、大菩薩などを堪能し、縁あって山梨大学に赴任。  
 ワインやぶどう、桃の香りにも造詣が深く、山梨の未来を支えるキーパーソン  
 食物学博士・時友裕紀子先生のご紹介です。

# 発人掘物

## 時友裕紀子教授

(教育人間科学部学校教育課程生活社会教育コース)  
 (大学院教育学研究科教科教育専攻/社会文化教育講座)

### フェアブルにコナン・ドイル 洞察力や探求心は本から学んだ

会社員と専業主婦という、ごく普通の家庭環境に育ちました。ただ、母は昔の人ですから料理も創意工夫しながらいろいろ作ってくれましたし、洋裁が得意で私の服はスーツやコートなど大学時代までよくこしらえてくれました。小学校から実家までの距離が離れていたため、近所に遊べる友達がなくて、低学年の頃から自然と読書は習慣になっていたんです。高学年になると遠くの友達の所へも遊びに行きましたが、たいていは放課後、図書室に通い詰めていましたね。気がつくと司書の先生と二人きりというような状況もしばしば。その頃、夢中になって読んでいたのが「フェアブル昆虫記」です。中でもサソリやフンコロガシなどに好奇心をくすぐられましたし、彼特有の卓越した観察眼や文章に魅了されました。「シャーロック・ホームズ」も好きでしたね。図書室の蔵書をほぼ読破してしまったほどで、国語は好きでした。

### 人として女性研究者として 敬慕する恩師との出会い

「家庭科」の魅力に目覚めたのは中学生。何て面白い科目だろうと、授業が待ち遠

しかったのを覚えています。特に興味を持ったのは食物学で、将来の職業として、食を専門にしていきたいと考えるようになりました。

大学へ進学すると、ただ料理をするだけでなく、さらにその背景の科学的な検証まで学べたのが新鮮でした。長い間先人が行ってきた料理の技術にじつは大変合理的な意味が含まれていることを知り、科学と密接な奥深い学問だなあと関心を揺さぶられました。

大学4年生では、香りの大家・山西貞先生(お茶の水女子大学名誉教授)の「食品学研究室」を選びました。女性研究者として、世界的な業績を上げていらっしゃる先生にご師事できるのはこの上ない喜びでした。雲の上の存在でありながら、実験は学生たちと一緒にくださる気さくな方で、以来、私自身のお手本でもあり続けています。卒業し就職してからも、同じ道を歩む者として国内外の研究所に幾度となく御伴させていただきました。御年97歳ですが、お会いするたび学生時代と変わらない激励の言葉を頂きますし、背筋の伸びる思いがします。素晴らしい師に巡り会えた幸せを噛みしめ、恩に報いることができるよう自分を鼓舞しています。



修論しめきり間際で  
 叶った  
 執念のソトロン発見

当時は修士まで進む人が少なかったのですが、どうしても勉強を続けたいという気持ちが強く、両親を説得して大学院へ。そこで行ったのが「黒砂糖の香り」の研究です。以前から黒砂糖の甘い香りが一つの物質だけで再現できるのではないかとされていたのですが、まだ見つかっていなかったもので、チャレンジしてみることにしたのです。

最初はなかなか思うような結果が出なくて、先生に相談したり、文献を調べ直して再度実験したりと、その繰り返しでした。さとうきびからキレイな砂糖を分離する時に出る廃糖蜜をガスクロマトグラフにかけて個々の匂いに分けます。そうして出てきた匂いを嗅いで、一つ一つ分析結果と照合し、これはと思った物質を実際に有機合成してみるんですね。もう最後の最後、修士論文の提出間際になって、まさにすごく甘い、あの黒砂糖の匂いが出たんです。これぞ、探し求めていた物質(ソトロン)でした。「ああ、ついに結果が出せた!」とホッとしましたし、感激はひとしおでした。

新聞を隅から隅まで読めば

見識が広まり、

何かしら興味も湧くはず。

若い時を無為に過ごさず、

簡単にさじを投げないでほしい。

たり、もちつきをして鏡餅をつくったりと様々なボランティア活動をしています。学生たちは「家庭科」の教員免許をとる者が中心ですが、彼女らにとっても初めての体験もあり、学内だけでは得られない、大変貴重で有意義な時間を過ごさせてもらっています。

最近では包丁を握ったことのない中学1年生もいますし、緑茶を茶こしで淹れる学生もいます。世の中が進歩してほとんど手を煩わすことなく簡単に食事ができる便利品もたくさん出回っていますから、さして困らないのかもかもしれませんが、道具を正しく器用に使いこなせると、いざという時役立ち、何より本人の自信につながりますよね。日本の未来を担う若い人たちにはぜひ、積極的にそうした体験をしてもらえるよう、声を大にしてお伝えしていきたいと思っています。

### 「生きる力」を育てる 家庭科はすべての源だから

小中高を通じて「家庭科」を学ぶ時間は少ないのですが、子供たちの「生きる力」を育てるためになくてはならない科目であることは確かです。社会に出て自立した生活が送れるよう、正しい知識と実践力を身につけておく、それがひいては豊かで幸せな暮らしにつながるからです。

私たち人間は誰かと喜びを分かち合うことで幸せを感じます。小学校の「家庭科」では自分が作った料理を家族に食べてもらおうというのが出発点になっています。そこから始まり、ではどうしたら美味しいものが食べられるか、という思考に及び、もっと勉強しようとか、働こうという具合に発展します。衣食住の中でも食は、とりわけ健康に直結していることも忘れないでほしいと思います。

「家庭科」を学ぶ学生がさらに増えてくれるのを願っていますので、食べることや調理することが好きな人、或いは一つのことを突きつめて研究したいという人はぜひ、いらしてください。心からお待ちしております。



## Yukiko TOKITOMO

#### 【略歴】

- 1978年 3月 お茶の水女子大学家政学部卒業
- 1980年 3月 お茶の水女子大学大学院家政学研究所修士課程卒業
- 1982年 4月 名古屋短期大学講師
- 1985年 4月 山梨大学講師(教育学部)
- 1988年10月 山梨大学助教授(教育学部)
- 1998年 4月 山梨大学助教授(教育人間科学部)
- 2005年12月 山梨大学教授(教育人間科学部)

#### 【専門分野】

食生活学(食物学)

#### 【主な研究テーマ】

食品の香気成分の分析、食品フレーバーの調理による変化、家庭科における食教育に関する研究

### ビギナーズラックの真理 そして、香り研究の醍醐味

分析では成分が複数の山となって出てきますが、ソトロンは山さえも出てきませんから、見逃されて当然。考えてみればまさにビギナーズラックなんです。若さゆえに忠実で何か手順を省くこともせず、愚直に研究を続けていたからこそ、出せた結果だと思えます。それと、根っからの実験好きも功を奏したんでしょう。そう言えば、高価なガラス器具を壊してしまい、助教授の先生の所へ謝りに行ったこともあります。すると「いいんだよ、時友さん。実験するから物が壊れるんだよ。実験しない人は割らないんだよ」と逆に励ましてくださったのを覚えています。あの言葉は今、私が使わせていただいているんですけどね(笑)。

その後、ソトロンはワインやカレー、様々な果物からも見つかりました。微量で非常に強い香りを発するので、白衣やペンまで匂いが染みつき、帰宅するとよく家族から「ほら、裕紀子がまたカレーの匂いをして帰ってきたよ」と、からかわれたものです。

不思議に思うのは、香りの成分として多く含まれている物質は得てして匂いが弱いのに対し、ほんの少し含まれているものの方が匂いが強いということ、そして、それこそが食物本来の匂いを形づくっているという点です。また、そうした物質は結構いろいろな食品に共通して存在するという点も面白いです。ひたすら実験に没頭した暁に物質の正体を突きとめられると興奮しますし、それが香り研究の醍醐味だと思っています。

### 実体験を通して 食教育の意義を高めたい

香りの研究の他にも最近では、山梨大学と北杜市とが連携して行う食の教育「教育ファーム」などに参加させていただいています。私はこの事業のマネジメントを任せられ、毎月1回、学生を連れて、小学生と一緒に田植えをしたり、大豆を育てて味噌や豆腐をつくっ





先生から生徒へのアドバイス  
みんなで役割分担し時には先生のアドバイスももらいながら…

[担当教員]  
本間 聡 准教授  
古田 敏 非常勤講師  
標 節也 非常勤講師  
小野哲男 技術職員  
内藤洋子 技術補佐員

**[到達目標]**

電気・電子工学実験IIでは、トランジスタ増幅器・パルス回路・デジタル回路・デジタルフィルタの4つのテーマに関して設計から始めて製作・測定までの一貫した流れを体験する。本実験の目標は、各種回路の原理を理解するとともに、実際にそれらを設計・製作・測定できるようになること。またプロジェクトベースラーニングの一貫として少人数のグループで電子回路を使った様々なシステムの作成が求められます。

電気電子システム工学科

# 電気・電子工学実験II



シロスコープによる作成物の測定の様子  
正常に動作しているかどうか波形によって判断します

**[授業の概要]**

この実験は学部3年の前期に行われます。全15週あるうちの9週目までは、トランジスタ増幅器・パルス回路・デジタル回路・デジタルフィルタの基本的な4つのテーマに関して設計から始めて製作・測定までの一貫した流れを体験します。この9週目までの実験は個人実験であり、実験課題に対する予習や回路・プログラムの事前制作などの準備、実験の計画的な遂行、実験ノートの記録方法、作成された回路や得られた実験結果の質、報告書が論理的・科学的であるか、など工学部に入ったならばこれくらいはできて当然といった部分を養うことができます。

10週目以降は、個人実験で養った回路知識を活かしたプロジェクト型学習となっています。10人程度のグループに分かれ、協力しあって与えられた課題に対してゼロから取り組みます。課題は毎年変わります。ここ数年の課題としては、「携帯電話の充電器の作製」、「スピードガンの作製」、「光無線通信システムの作製」、「人感照度センサー付きライトの作製」などというバラエティに富んだものが与えられています。いずれの課題も私たちの生活の中に馴染みのあるもので、我々学生も興味を持ちやすく、「ものづくり」の楽しさを学ぶことができます。同時に時間と資金の制約の中で決まったものを作り上げなければならない、そして見本が存在しないという状況下での使う材料や寸法の決定、作った物の測定などが正解かわからず、「ものづくり」がどれほど大変かということを実感することができます。もちろん行き詰った時には先生方からのアドバイスを受けることができ、それをヒントにグループみんなで議論し正解へと模索していきます。

また先生や他のグループに対して作成物についてのプレゼンテーションが課され、作った物への理解度、プレゼンテーションの能力などが評価されます。

この実験では将来エンジニアとして社会に出たとき必要とされる計画性、課題への解決力、システムのデザイン能力、目標達成のための自己管理能力などを養うことができ。実際に学部4年となった今この実験で培われたものが研究室で役に立っていて、あの時苦労したのは無駄ではなかったなあと日々感じております。



回路作成の様子  
半田ゴテを用いてハンダ付けを行います



甲府キャンパスから車で北西に1時間余。八ヶ岳の南麓に広がる清里高原にて、環境科学科の合宿ゼミを行いました。参加したのは学科2年生26名と学科教員14名の合計40名。夜半過ぎまで団欒の時間を過ごし、緑豊かな清里の自然と一緒に楽しむことで、お互いの距離がさらに縮まる良い機会となりました。



る新しい人材を養成します。これに加えて、土壌・水・大気などの生態系に直結する科目では、卒業までに多くの実験・実習・フィールド調査を行います。こうした「理科」全般を幅広く学ばせる人材育成システムは、他大学の環境系学部には見られない、本学科の大きな特長です。一連の説明をうけた当の2年生たちも、今後の学習への意欲を新たに

## 環境科学って なんですか？

この合宿を行う発端となったのは、当の2年生らが発した素朴な疑問でした。学科の先生たちは、具体的にどんな研究をされているのか？自分たちが今後3年生・4年生と進級していく過程で、具体的にどのような専門分野に携わることができるのか？そうした学生側の声を受けて、学科教員が急遽話し合い、交流を兼ねた泊まり込みの合宿実施を決めました。こうした予定外の行事をスムーズに実行できたのは、学生側の積極性と教員側のチームワークに依るところが大きく、当学科の性格をよく表す一幕といえます。

合宿を行ったのは、新緑薫る6月末の金曜日。参加者全員が団体バスに乗り込み、一路目的地へ向かいました。高原の森を抜け、悠然と草を食む牛の群れを横目に、向かう先は清里高原の研修施設：キープ自然学校。木目調の内装と近代的な研修設備がよく調和した、暖かな雰囲気施設の施設です。到着後の夕食では、地域の食材にこだわっ

た手作り料理を頂き、心づくしの歓迎を受けました。

## 理科のオールラウンダーを目指す

食事後は、同施設内にあるセミナー室へ移動。学科に所属する4名の教員が、自身の専門的な研究内容を、スライドで2年生全員にわかりやすく説明しました。

「環境科学」という分野の大きな特色の一つは、自然科学の主要4分野(生物・化学・物理学・地球科学)が全て関わるという点です。いわば、理科のオールラウンダーを目指すというのが、環境科学科の学生にとっての大きな目標となります。

特に本学科では、一見「環境」とは結びつきの弱い基礎化学・基礎物理・情報技術をも重視し、自然科学全体を俯瞰でき

た様子でした。

合宿二日目は、酪農体験と自然ハイキング。施設隣の農場で飼育されるジャージー牛と触れ合い、即興のバター作りを楽しみました。ハイキングの後には、森で拾った葉っぱを使ったクラフト体験。ご当地自慢のソフトクリームも満喫しました。その様子は環境科学科WEB (<http://www.ev.yamanashi.ac.jp/>)でご覧下さい。

学生たちの声を受けて企画した今回の合宿ゼミ。今後も「学び」と「楽しさ」を調和した教育・研究の充実に、学科一同で取り組んでいきます。



## ソフトボールサークル アミュゼ

こんにちは!ソフトボールサークルのアミュゼです!アミュゼは、毎週土曜日に北東中のグラウンドを借りて19時から21時半まで活動しています。みなさんにこのアミュゼというサークルについてたくさん知ってもらいたいので、詳しく紹介したいと思います!

まず、アミュゼは創立して6年目のサークルです。近年、アミュゼは人が少なく盛りに上がりに少し欠けていました。しかし、最近は1,2年生がたくさん入り、今では20人がこのサークルに所属しています。みんなで楽しく活動しています!!

**アミュゼは経験者だけでなく、女の子も所属しているし初心者も多くいます。だから、アミュゼはいつでも誰でも大歓迎です!!**

活動内容は主にチームを2つに分けて、紅白戦をしています。ですから、初心者だから試合に出られないなんてことはなく、みんなで楽しく活動ができます!また、定期的に他のチームと練習試合をすることもあります。練習試合をすることで実践力UPを図っています。他のチームとの練習試合でも全員が試合に参加できるようにしているので、ときには打順が16番まであるなんてこともあります。

そして、サークルが終わったあとにはみんなでご飯を食べに



*Let's play Softball*



行ったりしています!サークルが終わってお腹が減っているときのご飯はとてもおいしいです!みなでご飯を食べながら大学の話とか世間話とか、先輩後輩関係なく話をしたりして楽しんでいます。こういったことでもみんなの仲を深め合っています。週に1回だけです、こんな感じにみんなで楽しくわいわい活動しています!

ところで、アミュゼには大きな目標があります!!それは、山梨大学で夏と冬に行われるスポーツ大会で優勝することです!アミュゼは毎回そのスポーツ大会に参加しているのですが、いつも3位とか4位とかとても悔しい思いをしています…。その悔しい思いを晴らすためにも、ぜひとも優勝したいです。そしてさらに盛り上がりのあるサークルにしていけたらうれしいですね。

先輩たちが築き上げてきたアミュゼという素晴らしいサークルをますます発展させて、さらによりサークルにしていきます。これからもずっと続いてほしいと思います。

**誰でも大歓迎なので、ぜひ一度アミュゼに遊びに来てください! 待っています!**



こんにちは!!山梨大学医学部フットサルサークルです。

私たちは医学部キャンパスの体育館で、2週間に1回、日曜日にフットサルの活動をしています。フットサルはサッカーと比べてコートが小さいですが、室内で行うことができ、ルールも非常に分かりやすく、初心者の方でも楽しむことができるスポーツです。1チーム5人で構成されるので、10人いれば試合を行うことができます。私たちのサークルでは、チームを2あるいは3チームに分けてフットサルの試合を回して行っています。

**フットサルやサッカーが好きな方はもちろん、運動は得意ではないけれどたまには運動したいという方、フットサルをプレーしたことが無いという方、気楽に参加することができます。初心者大歓迎のサークルです。**

現役生だけではなく、大学を卒業して社会人になられた方でも参加することができ、フットサルを通して交流を深めることができます。

また、サッカー部だけでなく陸上部、ラグビー部などの運動部に所属している人も参加しています。文化部に所属しているが、やっぱり運動もしたいという人も参加しています。特に、スポー



ツをしたいがあまりスポーツをする機会が無いという方にはもってこいの場です。所属している部活に関係なく、誰でも楽しむことができるサークルです。

私たちフットサルサークルはフットサル経験の有無は問いません。フットサルが好きの方だけでなく、運動が好きの方、あるいはあまり運動は得意じゃないけど運動をしたいという方、少しでも興味を持たれた方は1度フットサルサークルに参加してみませんか?きっとフットサルの楽しさが分かると思います。



**本学に入学された方だけでなく、卒業された社会人の方の参加も大歓迎です。心よりお待ちしております!!**



# フットサルサークル

〈サークル紹介〉

医学部

CAMPLIS



# close-up people

◎教育人間科学部学校教育課程  
教科教育コース社会科教育専修

小山夏希さん

様々な学生が集まるので、  
お互いに良い刺激を受けて、  
新しい発見をすることができます。



社会科教育の仲間たち

実習の教具を友達と作成

## まず、自己紹介をお願いします!!

新潟県柏崎市出身の3年生、小山夏希です。新潟県は、とにかくごはんがおいしいので、食べるのが大好きです!所属している社会科教育専修は、明るくて、みんなでワイワイするのが好きな専修です。たまに、羽目を外すこともあります(笑)そんな仲間と囲まれて楽しい大学生活を送っています!

## 大学生活はどうですか?

とても充実しています。大学内は、様々な都道府県出身の学生が集まるので、出身地の違う、いろいろなタイプの友達が増えて、とても楽しいです。また、教育人間科学部は、教科や専門によって、様々なコースに分かれているので、専門的に学ぶ内容が違う人が集まってきています。だから、お互いに良い刺激を受けて、新しい発見をすることができます。1・2年生の頃は、授業が多くて大変だったけど、実習のことや進路のことは、あまり深く考えずに、自由に使える時間もたくさんありました。3

年生になると、授業数は減りますが、教育実習があったり、進路について真剣に考えたりと、自分と向き合い、自分を見つめ直す時間が増えました。きっと、4年生になると、今以上にきちんと自分と向き合わなければいけないのだらうと思います。

## 5月・6月にあった 小学校教育実習は どうでしたか?

とても充実していました。私は、舞鶴小学校の3年生に配属されました。実習に行く前は、自分が教える立場にたっているのか、とても不安でした。しかし、実習に行き、子どもたちと関わっていく中で、少しずつ自分に自信がもてるようになりました。大変なこともありましたが、笑顔や素直さに何度も助けられ、支えられました。そんな3週間の中で、いちばんうれしかったことは、社会がいちばん苦手と言っていた子が、実習の最終日に「先生のおかげで社会が好きになりました!」と言ってきてくれたことです。その言葉を聞いて、「頑張



って良かったな」と思いました。3週間を通して、感じたことは、いつも子どもたちに助けられていたということです。もちろん、実習で私たちを指導してくださる先生には、とてもお世話になりましたし、一緒に頑張った仲間にもたくさん助けられました。でも、それ以上に子どもたちの存在はとても大きかったです。だからこそ、どんなことがあっても、子どもたちのことを考えるだけで頑張れたのだらうと思います。私は、教育実習中の3週間、たくさんのことを学び、たくさんを感じ、たくさん大切なものが見つけれられたような気がします。本当に貴重な日々を送ることができました。

## 最後に一言!!

大学生活も残り1年半となりました。1日1日を大切に、悔いの残らない学生生活を送りたいです。これから大学生になるみなさん!!!大学生活、思いっきり楽しんでほしいです。どんなことにもチャレンジしてみてください。きっと、素敵な時間を過ごすことができます!



教育実習中の授業(書写)



教育実習中の授業

## 山梨大学 大学会館食堂

山梨県甲府市武田4-4-37  
[電話]055-220-8078  
[営業時間]11:00-14:30 18:00-19:30  
[定休日]土・日曜日、祝日  
[駐車場]なし

### 毎日を楽しんでくれる、学生の味方

今回紹介するのは、山梨大学学生として最もお世話になり、学生生活には欠かせない食堂です。山梨大学甲府キャンパスには、大学会館の食堂と厚生会館の食堂の2ヶ所の食堂があります。その中で今回は、大学会館食堂を紹介したいと思います。

この食堂は、とても広く、多くの席が用意されています。昼食の時間には、多くの学生が利用し、友達と楽しく会話し、おいしい昼食を楽しみます。とても活気あふれる楽しい場所です。

また、この食堂の楽しいところは定期的にイベントがあることです。その季節などに合わせてメニューが変わり、1年中飽きることなく楽しめます。ちなみに、7月のイベントは、スタミナ&スパイスフェアとしてハバネロチキンステーキなどのメニューが追加されています。そして、クリスマスなどにもメニューが変わります。そんなイベントに注目して1年通して楽しんでみてはいかがでしょうか。

(工学部機械システム工学科4年 山本大喜)



広くてきれいな食堂



**サバ塩焼き(160円)**  
一人暮らしではあまり食べることができない魚が手軽に食べられる



**カツカレー(400円)**  
安さとおいしさとボリューム全てで満足ができる一番のオススメ



**チキンおろしだれ(300円)**  
肉厚なチキンとポテトが一緒になった人気な定番メニュー



一番の  
オススメ

小ネタ

この食堂でもらうレシートには、カロリーや栄養面のことが記載しており、健康を気にする人は要チェック!!

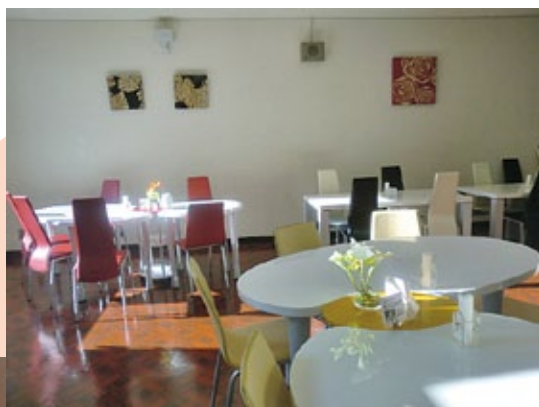
#### ◎メニューの紹介

この食堂の特徴はメニューの豊富さです。なんと、メニューの数はイベントの際の品や小鉢の品を含めると最大40品にもなります。また、その安さは、学生として本当に助かります。その中の一部を紹介します。

## 山梨大学医学部附属病院 クロスカフェ

山梨大学中央市下河東1110  
山梨大学医学部附属病院1F  
[電話]055-273-8373  
[営業時間](平日)11:00~19:30  
(日・祝日)11:00~17:00  
[定休日]土曜日 [駐車場]あり

### 病院内とは思えない、おしゃれで素敵なカフェ



おしゃれな雰囲気漂う店内



栄養面が考えられたメニューがいっぱい!!

クロスカフェは山梨大学医学部附属病院の1階にある、病院内とは思えないような、おしゃれで素敵な雰囲気のカフェです。病院に来院された一般の方だけでなく、病院で働くスタッフさんや医学部の学生など、様々な方が利用しています。(医学部キャンパスには学食がないので、クロスカフェは学生にとって学食のような感覚で利用できるお店でもあります。)

そんなクロスカフェのメニューはバラエティーに富んでいて、定食の他に洋食、パスタ・ラーメンなどの麺類、デザートなどいろいろあります。特に、日替わりの定食は550円でお腹いっぱいになれるくらい、ボリュームがしっかりした、とてもおいしい人気セットのひとつです。(日替わり定食を職員、医学部の学生はなんと490円で利用できます!)セットメニューは栄養面が考えられており、副菜が豊富でバランスが良いです。メニューの名前の下にはカロリーや塩分量も書かれており、健康を気遣う方にもオススメです。

また、カフェの隣にはおしゃれな中庭もあるので、外でゆっくりとくつろぎながら食べることもできます。附属病院に立ち寄る際、訪れるべき素敵なお店です。皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか?

(医学部看護学科2年 芦原奈津希、佐藤真優)

## 医学部附属病院で 新病棟起工式を挙

医学部附属病院では、病院再整備事業のスタート事業である新病棟の建設にあたり、平成25年5月23日(木)に起工式を挙りました。

起工式には、前田学長、島田病院長をはじめとする大学関係者、山下山梨県福祉保健部長、田中中央市長、森澤甲府地区消防本部次長、工事関係者ら47名が参列し、工事の安全を祈願しました。新病棟は平成27年6月に完成予定で、建物構造は、鉄筋コンクリート造(免震構造)7階建て、延べ床面積20,916平方メートルであり、病院全体606床のうち、356床を収容することとなります。ヘリポートを屋上に整備するとともに、高機能手術が可能な手術環境を整備するなど、附属病院の役割と患者ニーズに対応した整備を行う予定です。



新病棟外観予想図

## 「連続市民講座」 受講者募集中!

【日時・場所】

開催日：『スケジュール一覧表』参照  
会場：山梨大学 甲府東キャンパス  
A2-21教室  
定員：330人  
時間：午後1:30~3:00まで  
(午後1時開場)  
受講料：無料

【お問い合わせ先】

〒400-8510  
甲府市武田4-4-37  
「山梨大学教務課公開講座担当」  
電話：055-220-8044  
FAX：055-220-8796



読売新聞甲府支局と共催し、「究める～真実を探り 文化を研く～」と題した全10回の連続市民公開講座を開催しております。文系・理系を問わず、様々な分野でその道を究めようと日々努力を重ねる研究者たちが、研究内容や思いを多角的に語ります。

第4回まで終了していますが、これから開催される講座がありますので、ぜひご参加ください。

【スケジュール一覧表】

	開催日	講義題目	講師
第1回	4月20日(土)	究極のエネルギー源 ～地球が有する熱エネルギー～	武田哲明 教授 (工学部)
第2回	5月18日(土)	暮らしと水の関わりを科学し、その将来を考える ～山梨の水環境を題材として～	風間ふたば 教授 (生命環境学部)
第3回	6月15日(土)	幕末の青春 ～開国と甲府徳典館学頭～	成瀬哲生 教授 (教育人間科学部)
第4回	7月20日(土)	作曲家は変装名人 ～身近な音楽からテーマの展開術を探る～	藤原嘉文 教授 (教育人間科学部)
第5回	9月21日(土)	血小板を究める ～かさぶたを作るだけではなく、小さな細胞～	井上克枝 准教授 (医学部)
第6回	10月19日(土)	難治性の疼痛の正体 ～グリア細胞の役割～	小泉修一 教授 (医学部)
第7回	11月9日(土)	「読むこと」の秘鑰(ひやく) ～文学が教育にできること～	須貝千里 教授 (教育人間科学部)
第8回	12月14日(土)	甲状腺癌とは? ～その生物学的な特徴と福島原発事故の影響～	加藤良平 教授 (医学部)
第9回	平成26年 2月15日(土)	ミルクの不思議・乳の七変化 ～乳、乳製品を科学し、新たな食文化を創造する～	谷本守正 教授 (生命環境学部)
第10回	平成26年 3月15日(土)	燃料電池の反応場を究める ～マイクロ、ナノの世界の最前線～	内田裕之 教授 (クリーンエネルギー研究センター)

\*講座の内容等は、ホームページ

([http://www.yamanashi.ac.jp/modules/extension\\_courses/index.php?content\\_id=2](http://www.yamanashi.ac.jp/modules/extension_courses/index.php?content_id=2))

### 編集後記

『山梨大学広報Vine』が2007年3月の創刊以来、第20号を迎えました。

これまでの各号の特集テーマは、「大学広報のリニューアルと大学経営方針について」(第1号)、「大学経営方針について-その2」(第2号)、「山梨大学工学部は“いま”」(第3号)、「成果が実感できる学習を目指して」(第4号)、「全学共通教育科目で何を身につけるのか(1)・(2)・(3)」(第5~7号)、「計画的に学習を進めるために」(第8号)、「山梨における理科の中核となる教員の養成を目指して」(第9号)、「山梨大学の目指すもの」(第10号)、「ライフサイエンス特進コース」(第11号)、「統合能力型高度技術者養成プロジェクト」(第12号)、「『地域密着型』教員養成大学院のパイロットモデル」(第13号)、「臨床教育センター」(第14号)、「新たな歩みで学部を再編」(第15号)、「生命環境学部」(第16号)、「ワイン科学研究センター」(第17号)、「教育人間科学部」(第18号)、「工学部附属ものづくり教育実践センター」(第19号)です。今号では「リエゾンアカデミー研究医養成プログラム」を特集しています。

これからも『山梨大学広報Vine』は山梨大学の「今」を発信してまいります。本誌に関するご意見をお寄せください。

広報誌専門委員会委員長 服部一秀



表紙作品の紹介

タイトル  
「エゴイズム」

相澤真都(あいざわ まなつ)  
教育人間科学部  
美術教育専修3年

### 山梨大学広報「ヴァイン」 August 2013 vol.20

発行者：山梨大学広報誌専門委員会

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務・広報課広報グループ

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8024

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

<http://www.yamanashi.ac.jp/>



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。